

～福岡女学院大学・福岡女学院大学短期大学部は地域・社会へ
貢献したいと考え、地域から愛される大学づくりを目指しています～



本学地域・国際交流センターは、地域社会や学外機関との連携活動並びに国際交流活動を推進することで、本学の社会連携と地域貢献を活性化させるとともに、本学学生が国際的視野に立ち、主体性を持って学び続け、多様な人々とつながりを創出し、また学び直しを通じた社会人の人生の充実を目指して運営しています。今回のセンターNEWSでは、2022年度総集号として、1年間の地域貢献関連活動をまとめてご紹介します。

…社会貢献は、大学の使命です（すべては、学生のために）…

学長に就任する前は、2019年9月に設置された地域貢献センター長を拝命しておりました。その後、2021年度は、浮田英彦センター長（教授）、2022年度は、能勢卓センター長（教授）に引き継がれています。

I 3年連続「文部科学省改革総合支援事業（タイプ3）」（地域社会への貢献）に選定
事務次長が中心となって、学院が一つになって取り組みました。3年連続の選定を成し遂げました。これも協力してくださったおかげです。

II 青少年育成事業として、「夢語りコンテスト」の実施
今年も、100名近くの応募がありました。これは、福岡花ライオンズクラブ様が21年続けてこられたものを引き継いだものです。運営には在学生スタッフが主体となって携わり、地域・国際交流センター、キャリアセンター、教職支援センターを中心とした大学全体の協働事業として地域貢献を目的に実施しています。

III 情報共有と発信
「学長室の窓」を学長室が中心になって、月一回の情報発信をしています。地域・国際交流センターの内容についても、情報共有しています。2年間続けることができています。

IV 地域清掃活動の実施
「星のかけら拾い隊」と命名して、毎月一回（第3木曜日の朝7時45分から8時15分まで）地域清掃を実施しています。学生、教職員、地域の方も一緒になって行っています。多い時には20名を超える参加者があります。

V 今後に向けて
教職員の皆様と共に、努力に努力を重ねて参ります。ご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。



学長
伊藤 文一

改革総合支援事業 【3年連続】選定

本学の地域貢献の取り組みが認められ、文部科学省が実施する「令和4年度私立大学等改革総合支援事業」において、タイプ3「地域社会への貢献」（地域連携型）*に選定されました。

この度の選定は、2020年度から続けて3年連続となります。本事業への申請にあたりご協力いただいた包括連携先の皆様、地域の皆様、関係教職員の皆様へ心より感謝申し上げます。

選定による補助金交付を受け、教育・研究力を活かした地域貢献活動の取り組みを推進してまいります。



ケーブルステーション福岡との連携事業
（地域とメディアについて考える）

*タイプ3「地域社会への貢献」（地域連携型）とは、地域と連携した教育課程の編成や地域の課題解決に向けた研究の推進など、地域の経済・社会、雇用、文化の発展に寄与する取り組みを支援するものです。

ディサント株式会社・岡垣町
>> 包括連携協定締結

2022年度は2つの機関と包括連携協定を締結しました。



2022年9月15日
ディサント株式会社との協定締結式

ディサント株式会社とは過年度より本学国際キャリア学部と連携がありました。日伊経済連合会主催の西日本国際フォーラムでの国際キャリア学科学士のインターンシップやベネチア大学からのインターン生との交流、著名な国際経済学者であるロレッタ・ナポレオーニ氏による学内での講演など、密接な協力関係を築いてきました。今後は連携協力の取り組みをステップアップし、国際交流、特に日伊間事業関連の発展・向上に関することについて相互に協力し、社会の発展と教養豊かな国際人育成に繋げていくこととしています。

岡垣町とは 2005年から現代文化学科浮田ゼミを中心に連携があり、岡垣町の活性化プロジェクトに取り組んできました。2010年には学生たちの岡垣町観光振興に関する研究が第3回 産学連携オープンセミナーにて優秀賞を受賞、2011年には学生たちが作成した岡垣町観光マップが第17回 マイタウンマップ・コンクールにて文部科学大臣賞を受賞しました。

今後はキャリア教育、観光を中心とする幅広い分野において、双方のリソースを最大限活用し、地域におけるまちづくりの推進と学術の振興及び人材育成の充実と発展に繋げていくこととしています。

この協定が、地域の皆様の様々な課題解決につながることを願っております。



2023年3月29日
岡垣町との協定締結式

春日市 >> デジタルワークショップ

2月4日(土)、春日市在住の小学4年生を対象に、2022年度 地域連携教育プログラム「デジタルワークショップ はじめてのスクラッチ」を開催しました。2021年度より継続して、今回が2回目となります。

包括連携先の春日市と本学心理学科の藤村先生の緊密な連携のもと、半年以上の準備期間を経ての実施。パソコンでScratch(スクラッチ)というコマンドプログラミングのアプリを用いてアニメーション制作に挑戦しました。

講師を担当したのは心理学科の3年生、7名。株式会社グルーヴノーツ テックパーク事業部の協力のもと、チラシの作成やワークショップの準備も行いました。



アニメーション制作時は学生たちの親身なフォローアップを受けながら黙々と作業を進め、個性豊かな「自分だけの水族館」が仕上がり、児童も学生も充実感に満ちた楽しいひと時となりました。

ワークショップ後には、春日市教育委員会と株式会社グルーヴノーツの皆さまに講評(評価)をいただきました。学生たちはワークショップを通し、人にわかりやすく伝えることの大変さやプログラムの事前準備の大切さなど、多くのことを学ぶことができました。



2月25日(土)、26日(日)に通算3回目となる、2022年度 地域連携教育プログラム「地域防災・医療・福祉人“財”育成」を春日市 昇町保育所と連携して開催しました。今回は保育士を中心とする地域一般の方を対象に、「いざという時のための防災～子どもを中心に災害に備える～」のテーマのもと、災害時の子どもたちの安心・安全のために必要な備えについて学びました。

1日目は本学子ども発達学科の森谷先生と福岡女学院看護大学の酒井先生が、東日本震災、熊本震災における災害復興学生ボランティアの活動を紹介され、積極的な支援の必要性和子どもたちの安心できる場所づくりの大切さを学びました。

後半のワークショップでは震度7の地震が起きたことを想定し、震災直後の子どもたちにとって安心・安全な環境について意見を交わしました。普段の生活で大切にしていることを意識し、非常時も日常を大切にしていけることの大切さを学ぶことができました。

2日目はNPO法人子育て応援おきな木 理事長の木村先生をお招きし、熊本震災のご経験から、子どもたちを中心とした災害への備えについてお話いただきました。

いざというときにあわてることがないように、避難に備えた行動を一人ひとりがあらかじめ決めておくという「マイ・タイムライン」を保育所でも作成して定期的に見直すこと、保育所周辺地域の危険個所を普段から把握しておくことなど具体的な行動レベルでの取り組みの大切さをお話いただきました。



小郡市 >> おごおり観光モニターツアー

本学地域・国際交流センターと小郡市が連携し、小郡市内の観光名所を巡る「おごおり観光モニターツアー」を実施しました。

参加した学生は、現代文化学科、言語芸術学科、心理学科、子ども発達学科、国際キャリア学科の留学生も含む1～3年生14名です。

本ツアーは小郡市の観光客誘致およびインバウンド強化を目的とし、学生たちの若い新たな視点からの意見をもらい、今後の改善に繋げることとしています。ツアーを通して小郡市を知るとともに、どうしたら各地の課題を解決できるか考えました。

ツアーの終わりに、様々な視点から感想や気づいたことなどをアンケートにまとめ、小郡市へ提出しました。今後の小郡市観光の発展に少しでも貢献できたら幸いです。



学生の活動 ～2022年度ボランティア～

地域・国際交流センター【地域貢献】では、包括連携先を主軸とし、学生の学びにつながる多種多様な学外活動のコーディネートを行っています。学生ボランティアの募集は2021年4月から開始し、2022年度も50名近くの学生と依頼元の各機関をつないでまいりました。コロナ禍による活動が制限が緩和されることで活動への参加機会も増え、学年や学部学科を越えた出会いの場として、また、夢や目標に向けた第一歩として、学生たちがボランティア等の学外活動で貴重な経験をするとともに生き生きと活躍していることを多く実感する1年となりました。

ランドセルクラブ <大野城市教育委員会>

ランドセルクラブは、学校・家庭・地域が連携して子どもを育てる「PTCA活動」の一つとして、大野城市内の小学校にて実施されている放課後総合学習の場です。

ボランティアに応募した学生は学部・学年を越えたチームを作り、クラブで行う体験活動の企画立案と現地での講師をつとめました。2022年度は全12回、9つの小学校で数か月にわたって実施しました。学生の企画は大好評で、各学校の子どもたちからたくさんのお礼のお手紙もいただきました。

コーディネーターさんとの打ち合わせでは、自分では気づけないこともたくさんありました。学科によって子どもたちへの関わり方もまったくちがいが勉強になりました。

学生の声

今まで関わりのなかった小学生と段々と上手に接することができたことが学びにつながりました。



バスボム作りの様子【大野東小学校】

【実施した体験活動】
バスボムづくり／ミニ運動会



活動を行って本当に良かったと思いました。バスボム作りでは特に子どもたちが生き生きと活動する姿にとてもやりがいや達成感を感じました。

準備も大変ではありましたが、他の学生と協力する大切さを感じました。

ヤングアドバイザー <大野城市教育委員会・那珂川市教育委員会>

大野城市教育委員会・那珂川市教育委員会とは、それぞれヤングアドバイザー派遣に関する覚書を締結しており、小中学校または適応指導教室にて、学習や体験活動の支援員として継続的に活動中です。

ヤングアドバイザーとして参加しているのは、教職課程または心理学科の2～4年生。学習サポート、調理実習、スポーツなどの体験活動のほか、ハイキングやアイススケートなどの校外学習にも参加。様々な場面における、小中学生との関わり方を学んでいます。



学生の声

さまざまな人と出会い、自分の意見を持って発言することが大切だということを学びました。今までは人についていけばいいでしたが、私も周りを巻き込んで引っ張っていける人になりたいと思いました。中学生との触れ合いはいつも新鮮で楽しかったです。

花壇づくり <須玖小学校>

本学からほど近い場所にある須玖小学校からは、2022年度の創立50周年記念事業として行う花壇づくりの協力依頼をいただき、6名の学生がボランティアとして活動しました。

PTA実行委員会の方や環境委員会の児童と、行事にあわせた華やかな花植えや飾りつけを行いました。活動の様子は記念誌にも掲載いただきました。



学生の声

活動を通して得た学びや気づきは学校生活やアルバイト、日常生活でも活かしていると思います。また、実行委員の皆さんがとても親切にしてくださったので活動日がいっぱい楽しかったです。

日の出小学校 特別支援学級の児童支援 <春日市>

日の出小学校から特別支援学級の児童支援ボランティア派遣の依頼をいただき、子ども発達学科、心理学科の学生6名が学級に入り、学習補助や声掛けなどの生活支援に携わりました。子どもたちとの関わりをとおして、将来につながる貴重な体験の場となったようです。

学生の声

特別支援学級の児童の達成感に満ちた顔や楽しいと感じていることが伝わってくる顔を見ていると地域に貢献できていることを実感し、とても嬉しく思いました。日の出小学校には複数の特別支援学級があり、それぞれの学級で先生方の授業の進め方の工夫や環境構成の工夫が見られ多くのことを学びました。

活動をとおして、発達障がいの子もたちとどのように向き合えばいいのかをもう一度考え、もっと関わりたいと思い、子どもの発達支援のアルバイトをするまでに至りました。これからは、このボランティアの学びを通して、学科の学びも同時に深めていきたいです。



学校支援ボランティア・学び場支援スタッフ <小郡市>

小郡市からは、学部学科を問わないボランティア派遣の依頼をいただき、小中学校にて次のような活動に参加しています。対象学年は活動現場によって異なり、学生たちは各々の場所で幅広い経験ができたようです。今年度は11名の学生が参加しました。

【学校支援ボランティア】小中学校における、授業・部活動・放課後学習などのサポート
【学び場支援スタッフ】BBクラブ：小学校での遊びと学びの見守り
チューター：中学生を対象とした学習指導や見守り



友達に誘われて始めたボランティアでした！可愛い子供達と行ったことのない小郡のいい所を沢山知れてすごくいい経験になりました。

学生の声



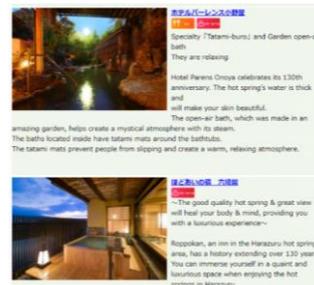
約1年半BBクラブでスタッフを行ってきて、ほんとに楽しいと感じています。最後に子どもたちから、「今までありがとう」とお手紙をもらえ、とても嬉しかったし参加して良かったと心から思うことができました。

中学生の指導に入りました。わからない部分を理解してくれた時はとても嬉しくなりました。また地域の方々との集まりで交流する機会もあり、たくさんの人と関わりました。学習の指導でも地域の方々との交流もとても楽しい時間を過ごせました。

観光サイトの英訳 <朝倉市>

2020年度から継続して2022年度も「秋月さるきマップ」、さらに「原鶴湯めぐりマップ」のポータルサイト全体の英訳に取り組みました。今回は現代文化学科、心理学科、国際英語学科、国際キャリア学科、短期大学部英語科から7名の学生が協力して活動しました。新設のページを英訳しましたので、ぜひご覧ください。

学生の声



今まで日本の伝統的な言葉遣いや施設についての英語に触れてこなかったのが、今回新たな知識を身に付けることが出来て良かったです。より語彙力の幅が広がったと思います。また、福岡の魅力を実感することが出来ました。

英訳をする際に、適した日本語を選ぶのは難しいと感じていましたが、今回その学びを通して、観光分野における生きた英語を学ぶことができたし、知らない人同士でもコミュニケーションをとって活動していくことの重要性を知りました。

行政情報の多言語翻訳 <古賀市>

外国人登録者数が年々増加している古賀市とは、2021年度より行政情報の多言語翻訳を協力して進めています。2022年度は子育て支援に関する文書「妊婦さんアンケート」「3歳児検診アンケート」の2種類をネパール語・ベトナム語に翻訳しました。事前に古賀市まちづくり推進課の職員と本学の留学生が、翻訳作業の打ち合わせを兼ねてオンラインで交流しました。翻訳では日本語でも難しい言葉に苦戦しましたが、無事に完成し、古賀市在住の外国人の皆さんの役に立つことができました。



学生の声

本当に素晴らしい経験でした。翻訳中に自分がわからない日本語の言葉と漢字の読み方たくさん学ぶことができました。

各包括連携先に関わる主な活動 ～2022年度～

包括連携先	内容
朝倉市	<ul style="list-style-type: none"> ・包括連携協議会実施 ・原鶴湯めぐりマップと秋月さるきマップ（一部）の施設説明の英訳ボランティアに学生7名が参加（P.5参照）
福岡市 南区	<ul style="list-style-type: none"> ・南区大学連絡会議へ出席 ・南区こども大学2022で「短歌をつくろう」を開講 ・南市民センターリニューアルオープニングイベントに学生ボランティア参加、メディア・コミュニケーション学科の学生写真作品を展示 ・塩原公民館にて「はじめてのZoom講座」実施 ・弥永公民館にて本学留学生との交流会実施 ・南市民センターワークショップへ参加 ・南市民センターにてZoom講座、短歌講座を実施
小郡市	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習改善に向けた保育実習担当教員との意見交換会の講師を本学教員が担当 ・小郡市の観光モニターツアーを実施（P.3参照） ・平田家住宅の文化財整備、学校支援ボランティア、学び場支援スタッフ ボランティアへの学生参加（P.5参照）
古賀市	<ul style="list-style-type: none"> ・古賀市の「子育て支援」に関する市民向け文書を英語、ベトナム語、ネパール語に翻訳するボランティアへ学生2名、留学生4名が参加（P.5参照） ・第5次古賀市総合計画の総合政策検証会議の委員を本学教員が担当
春日市	<ul style="list-style-type: none"> ・新成人を対象とした選挙啓発チラシを心理学科の学生が制作 ・春日市商工会女性部主催音楽イベントのため本学ギール記念講堂等の施設を貸出 ・学校における危機管理モデルの構築に関する協議会を実施 ・若者の主権者意識の醸成および投票行動促進に関する課題解決に向け、心理学科の授業「心理学フィールドワーク（キャリア）A」と連携 →ゲスト講義やこれまでの春日市との連携についてRKB毎日放送から取材を受ける（放送：5月25日【ミライアングル】） ・奴国の丘フェスタに本学軽音学部が出演 ・春日市内小学校4年生を対象に心理学科の授業「心理学フィールドワーク（キャリアB）」を受講している学生が主体で「デジタルワークショップ」を実施（P.2参照） ・包括連携協議会実施、本学教育課程に関する意見聴聞 ・春日市昇町保育所と連携し、保育士を中心とする地域一般の方を対象とした「地域防災・医療・福祉人“財”育成プログラム～いざという時のための防災 子どもを中心に災害に備える～」を実施（P.3参照） ・日の出小学校、須玖小学校のボランティアへ学生が参加（P.4、5参照）
粕屋町	<ul style="list-style-type: none"> ・かすやこども館運営協議会の委員を本学教員が担当
篠栗町	<ul style="list-style-type: none"> ・国際キャリア学科を中心とした外国語観光マップ作成等の連携活動を実施 ・福岡県防災訓練に本学学長が出席
大野城市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ランドセルクラブ・ヤングアドバイザーへの学生参加（P.4参照）
那珂川市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生対象の「イングリッシュデイ」に短期大学部2年生4名が参加 ・ヤングアドバイザーへの学生参加（P.4参照）
鳥栖市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥栖市教育委員会事務点検評価委員を本学学長が担当 ・鳥栖市立鳥栖中学校で学生がボランティアに参加

包括連携先	内容
佐賀市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の佐賀市教育委員会評価委員を本学地域・国際交流センター長が担当 ・幼保小接続期プログラム連携に本学教員が参画 ・包括連携協議会実施、本学教育課程に関する意見聴聞
認定NPO法人 未来創造ハピネス	<ul style="list-style-type: none"> ・春日市教育委員会を含めた三者による、学校における危機管理モデルの構築に関して協議会実施
NKコンサルティング	<ul style="list-style-type: none"> ・篠栗町と国際キャリア学科との連携開始に向け、篠栗町との打ち合わせ等、連携調整
九州テレ・コミュニケーションズ株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア・コミュニケーション学科と連携し、スタジオ訪問やゲスト講義を実施
ディサント株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・包括連携協定締結（P.2参照）
岡垣町	<ul style="list-style-type: none"> ・包括連携協定締結（P.2参照）

中学生・高校生「夢」語りコンテスト

2021年度から引き続き、中学生・高校生を対象とした「夢」語りコンテスト～伝わるプレゼングランプリ～を開催しました。

本コンテストは福岡花ライオンズクラブ様が長年主催されてきた「夢語りコンテスト」で伊藤学長が審査委員長・審査委員を務めていた経緯があり、同名義のコンテストを本学が引き継いだものです。

3月21日（火・祝）には決勝大会が福岡女学院ギール記念講堂にて開催されました。今回は本学で初の対面開催となり、第1次・2次審査を通過し選ばれた、計14チーム（中学校10チーム、高校4チーム）の皆さんが、それぞれの夢をステージ上で熱く語ってくれました。

本コンテストを開催するにあたり、第1次選考よりエントリーしていただいた皆様、そして決勝大会へ出場された14チームの皆様、出場者のご支援賜りました保護者様・学校関係者の皆様、会場へ足をお運びいただいた皆様、そして審査ならびに共催・協賛・協力・後援いただいた関係機関の皆様、全てのみなさまへ感謝申し上げます。



地域貢献部門の活動状況を掲載中！

こちらから大学ホームページをご覧ください

[リンク](#)：【地域貢献活動状況】



包括連携先を主軸とし、学生の学びにつながる多種多様なボランティアやセミナーの案内を行っています。
興味のある方はぜひご参加ください。

メール・Mission-Net掲示板、地域・国際交流センター前の貼り出しチラシをお見逃しなく！

福岡女学院大学
福岡女学院大学短期大学部
地域・国際交流センター
【地域貢献】

〒811-1313 福岡市南区日佐3-42-1
TEL：092-575-6154（内線：721）
受付時間：月～金 9時～17時30分

125周年記念館 1F
E-Mail：rcc@fukujo.ac.jp

[リンク](#)：地域・国際交流センター【地域貢献】

※2023年5月より
場所が100周年記
念館2Fに変更にな
ります

